

個人質問(11月29日) くれまつ順子議員

名古屋空港の航空機騒音の監視体制を見直せ F35は試験飛行なので騒音測定対象外。将来は検討する(局長)



11月29日の名古屋市議会で、くれまつ順子議員は、F35の騒音対策と敬老パスの利用拡大を求めました。

F35戦闘機がものすごい爆音

「これまで聞いたことのない航空機の音量に驚いた」という守山区大森に住んでいる人が、区役所に問い合わせたところ、「県営名古屋空港に隣接する三菱重工小牧南工場におけるF35ステルス戦闘機の試験飛行だった」との回答が返ってきたそうです。くれまつ議員は、こうした住民の声を届けて、名古屋空港の航空機騒音にたいする監視体制の強化を求めました。

名古屋市内で環境基準を超える騒音

名古屋空港での航空機騒音の測定は、名古屋市内では北区と守山区の2地点で冬季2週間だけ定期監視が行われています。今年、北区で環境基準の57デシベルを超える60デシベル、守山区で57デシベルでした。

名古屋空港は、国際線が中部国際空港に移って以降、小牧基地の自衛隊機の離着陸回数が2倍以上に増えています。環境局長も「C130の低空飛行訓練やヘリコプターの緊急飛行などの騒音による苦情や相談が寄せられ、騒音が発生している」と認め



ました。しかし、「自衛隊機の低空飛行訓練は、防衛上の機密事項だから訓練内容を事前に把握することができないため、低空飛行訓練の測定は困難」と答えました。

名古屋空港がF35の点検・整備拠点に

三菱重工小牧南工場ではF35の組み立てが行われるとともに、点検・整備などを行うリージョナルデポ(地域整備拠点)とされました。くれまつ議員は、「本格的にF35が配備されると、点検・整備などのために名古屋空港に飛来する機数が増加し、騒音被害が増える。それでも、現状どおりの騒音監視体制でいいのか」と質問。環境局長は、「F35を含めた自衛隊機に限らず離着陸回数が大きく増加するなど、定期監視の測定結果が現状よりも高くなっていくような場合は、適切な測定地点、期間となるよう騒音監視体制の見直しを検討したい」と答弁しました。



東海防衛だより(2017/Ⅲ)の掲載されたF35の初飛行の様子

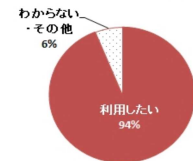
敬老パスを名鉄やJRへも利用できるように 不平等はわかる。バスも利用できない人への配慮も必要(市長)

くれまつ議員は、敬老パスの私鉄・JRへの利用拡大について質問しました。

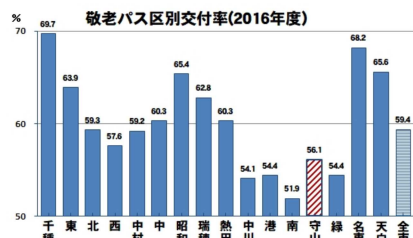
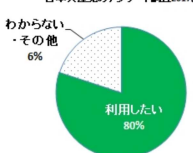
名鉄沿線などで不公平感

守山区での市民アンケートの結果を示し、私鉄・JRへの要望が大きかったことを紹介しながら、名

名鉄やJRで敬老パスが使えたら(敬老パスを持っている人) 日本共産党のアンケート調査2017より



名鉄やJRで敬老パスが使えたら(敬老パスを持っていない人) 日本共産党のアンケート調査2017より



鉄沿線住民は敬老パスが名鉄で使えなくて不公平感があることについてどう考えているのかと質問。市長は「バスも利用できない人への配慮も必要で、考えているが、不平等はわかる」と答えました。

事業費上限枠をなくして制度の拡大を

敬老パスの事業費上限枠について、河村市長は「事業費142億円を維持する」とだけ答えました。上限枠で制度を作れば、高齢者の増加で、利用制限が避けられなくなることや経済効果や健康増進効果、社会参加促進などの福祉の後退になります。くれまつ議員は「市民の願いを受けて敬老パスの様々な効果が生きるよう利用拡大を」と求めました。